



# 国際メンタリング・ワークショップ° Virtual Joshikai in Fukushima 2020 結果概要

2021年1月

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

# 開催概要

## ◆ 日程：

2020年12月15日(火)・16日(水)・17日(木)

## ◆ 場所：

オンライン  
NDF、NEA本部、各参加校、各メンター所在地など  
(25か所程度)

## ◆ 共催：

経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)

## ◆ 参加者：

50名



区分	人数	備考
福島県内高校生(12校)	22名	会津学鳳、安積、安積黎明、磐城、磐城桜が丘、 磐城緑陰、郡山女子大学付属、須賀川桐陽、 日本大学東北、福島、福島工業、ふたば未来、
福島県外高校生(3校)	6名	敦賀(福井)、広尾学園(東京)、水戸第二(茨城)
メンター	7名	国内共同議長(1名)、海外共同議長(1名) 国内共同議長代理(1名)、国内メンター(2名)、海外メンター(2名)
その他	15名	特別講演(1名)、来賓(2名)、オブザーバー(12名)





## テーマ 理工系分野での私の未来を考える

Why are STEM careers so important today and towards building our future?

DAY1 12/15	DAY2 12/16	DAY3 12/17
オープニング	オープニング	オープニング
開会挨拶 (NDF&NEA)	グループ・ディスカッション 1	発表準備
来賓挨拶	休憩 メンター交代	参加生徒発表 (個人)
基調講演 (国内・海外共同議長)	グループ・ディスカッション 2	共同議長・議長代理による講評
共同議長代理及びメンター講演	共同議長・議長代理によるDAY1振り返り	閉会挨拶 (NDF&NEA)
福島レクチャー (経済産業省)	閉会	閉会
アイス・ブレiking 1		
アイス・ブレiking 2		
閉会		

Joshikaiの合言葉は“I can do it!”





## 挨拶

主催/共催それぞれの代表より参加いただいた生徒へ向けて挨拶がありました。



**主催**：原子力損害賠償・廃炉等支援機構理事長  
**山名 元**

キーワードは“Building your future”。世界で活躍するメンターや仲間との対話を通して刺激を受け、活躍の道を歩んで欲しいとの期待が寄せられました。



**共催**：経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)事務局長  
**ウィリアム D マグウッドIV**

多くの優秀な女子生徒が各分野で活躍されているメンターとの交流でSTEM(科学・技術・工学・数学)分野でその可能性を発揮して欲しいとの激励をいただきました。



## 来賓挨拶



経済産業省  
大臣官房原子力事故災害対処審議官  
国際エネルギー技術統括調整官  
新川 達也

高校生の今は、先入観を持たず、様々なことへ興味を持ち、未来への選択肢を増やして欲しい、このワークショップへの参加で沢山刺激を受けて欲しい、との将来へ期待する言葉をいただきました。



韓国原子力安全技術院  
国際原子力安全学校教授  
ヨンヒー・ハー

どんな夢でも“I can do it”で成し遂げられる、目標は高く掲げ、理工系分野での次世代のリーダーになって欲しい、このJoshikaiでチャンスと可能性を最大限に引き出して欲しい、と激励をいただきました。





## 基調講演

国内外の共同議長より、女性の理工系進学、理工系分野で働くことについての現状と今後の課題、女性が活躍していける社会についてお話しをしていただきました。



国内共同議長：室伏 きみ子(お茶の水女子大学長)  
「女性研究者の力が社会の未来を拓く」

理工系女性の推移や、活躍度と経済効果の関係など、女性の理工系分野での活躍の重要性をデータで示し、理工系分野での活躍の後押しをいただきました。



海外共同議長：ルミーナ・ヴェルシ(カナダ原子力安全委員会)  
“ We can do it! ”

学ぶことを止めると成長も無くなり、つまらなくなってしまう、  
未来のリーダーである皆さんには、今の世の中をより良いものにするためにも  
全力を尽くして行って欲しい、とお言葉いただきました。



## メンター講演

国内外のメンターより、「理工系を選択された理由」「現在の仕事について」「女性が理工系を選択し、社会で働いていくこと」などについてお話しいただき、これから社会にはばたく参加者へ向けて、アドバイスやエールをいただきました。

### <国内共同議長代理>



国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)  
渡辺 美代子

### <国内メンター>



国立大学法人 お茶の水女子大学  
佐々木 成江



国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)  
岩田 直子

### <海外メンター>



米国エネルギー省 (DOE)  
リタ・バランウォール



ルウェーエネルギー技術研究所 (IFE)  
クレア・ブラケット



## 福島レクチャー



経済産業省資源エネルギー省  
電力・ガス事業部 原子力事故収束対応室・調整官  
羽田 由美子

2011年3月に起こった東京電力福島第一原子力発電所事故から2021年は節目の10年を迎えます。

今回のVirtual Joshikai 2020では、「福島レクチャー」として福島第一原子力発電所事故発生時から発電所の廃炉の進捗状況、福島県の復興への歩みと現況、今後の見通しなど9年の歩みをなぞりました。

このレクチャーを通し、福島の問題＝日本の課題として、原子力発電所の廃炉についてや、福島の抱える問題・課題などを改めて見つめ、向き合う時間を持つことを目指しました。





## グループ・ワーク

6グループに分かれ、理工系分野における自分のキャリアパスについて考えました。共同議長・メンター講演を聞いて感じたこと、グループメンバーとの意見交換を通し、今後の自分の在り方について考える時間となりました。

### グループディスカッション (2日目)

70分のグループディスカッションを日本人メンターと海外メンターと各1回ずつ行いました。

事前に、聞きたいこと・自分の考えをまとめ、ワークショップに臨みました。グループディスカッションでの気づきや参加して得たものをレポートにし、発表に備えました。



アメリカから、Joshikai in Fukushima 2019の参加者と、理工系志望の高校生のメッセージがあり、お互いに理工系での活躍の夢を共有しました。



### 発表 (3日目)

参加生徒全員が各自3分で、Virtual Joshikai in Fukushima 2020に参加して感じたことを発表しました。

<参加生徒意見・感想>

- ・研究職についての迷いがなくなった。
- ・女性研究者の存在がいかに大切か理解を深めることができた。
- ・現在の福島状況を、自分の周りの人にも伝えて行動していく必要があるなと思った。
- ・福島情報を発信していきたいと思った。



# アンケート

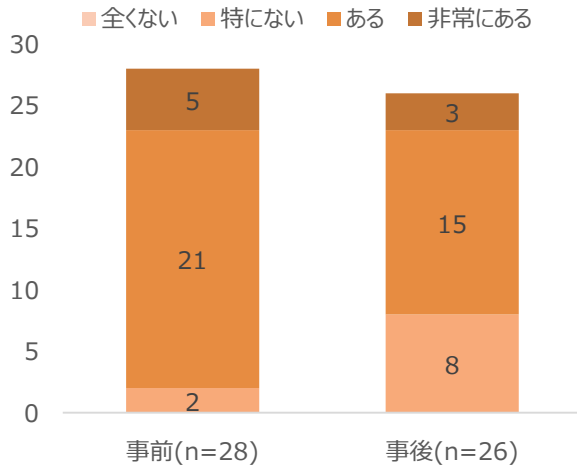


ワークショップの事前・事後でアンケートを取りました。

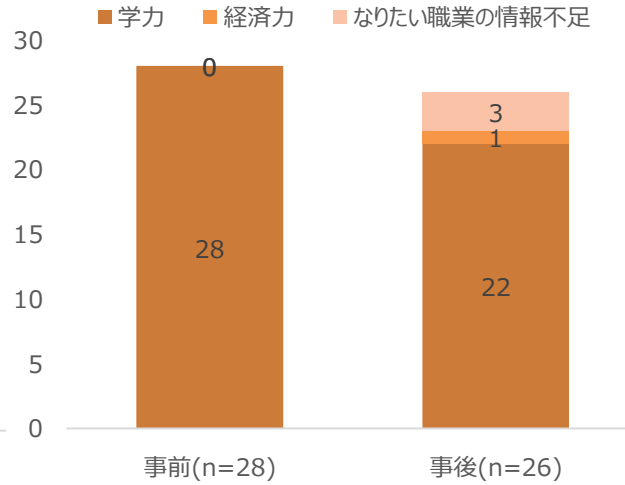
\* 調査母数に若干相違あり

## 1. 進路について

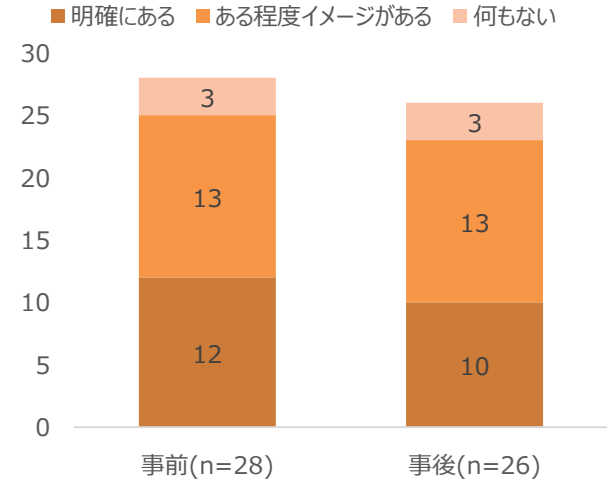
進路に関して不安が



進路に関して不安な原因は



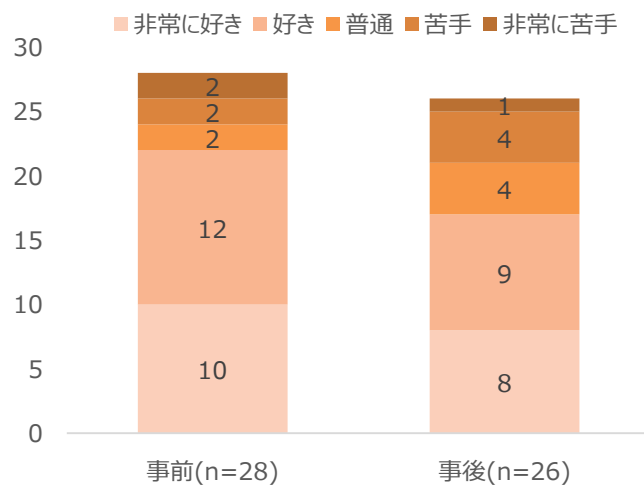
将来の夢が



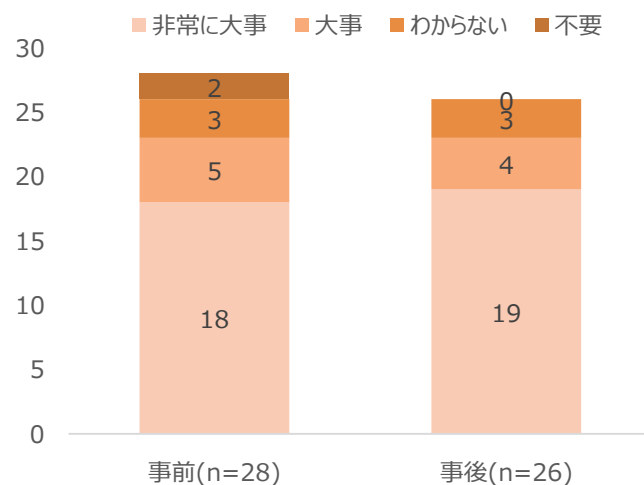


## 2. 理系科目について

現在理系教科が



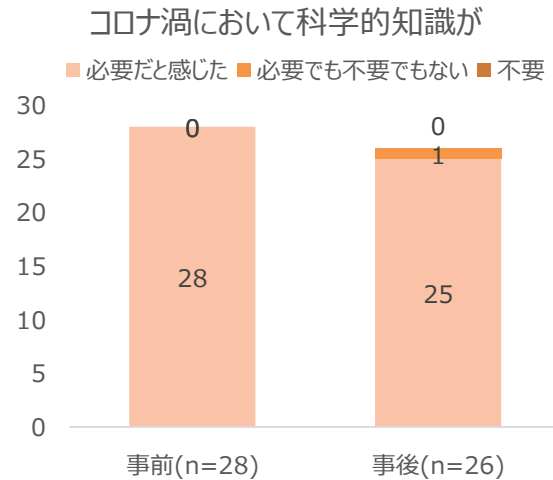
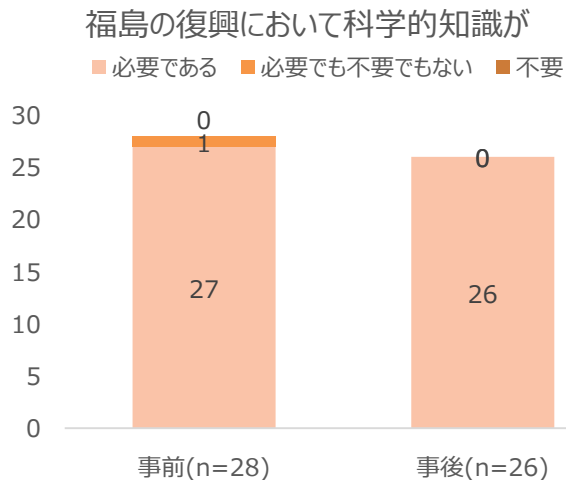
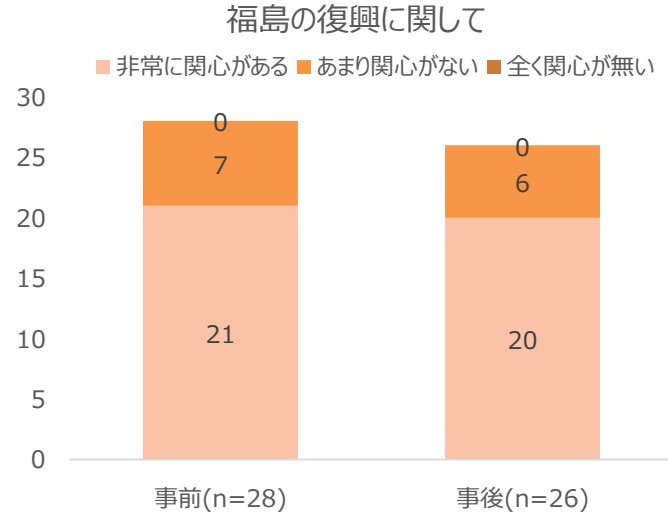
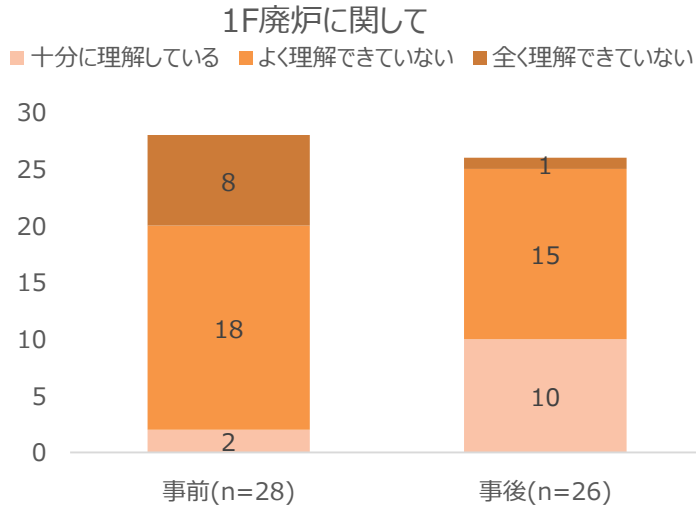
自身の将来に理系科目は



# アンケート

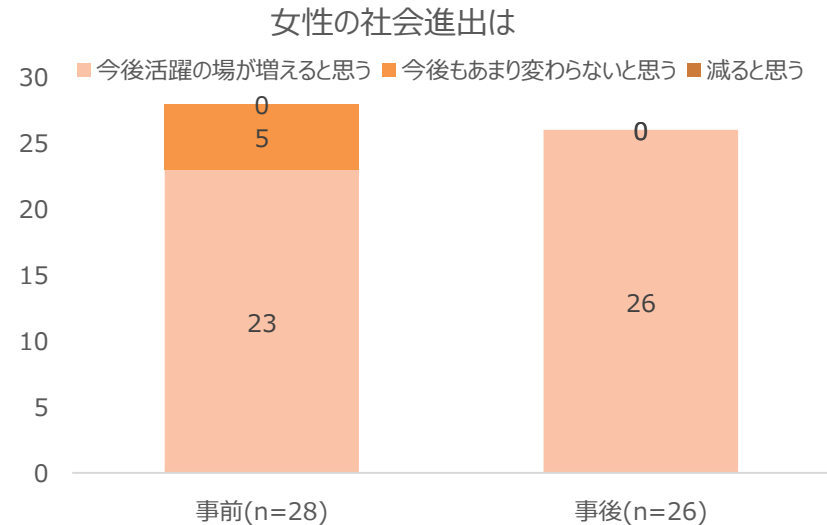
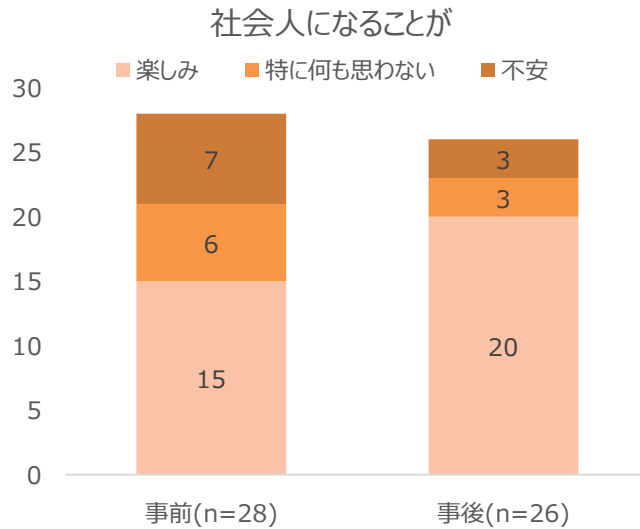


## 3. 福島復興及び社会と科学的知識について





## 4. 女性と社会について

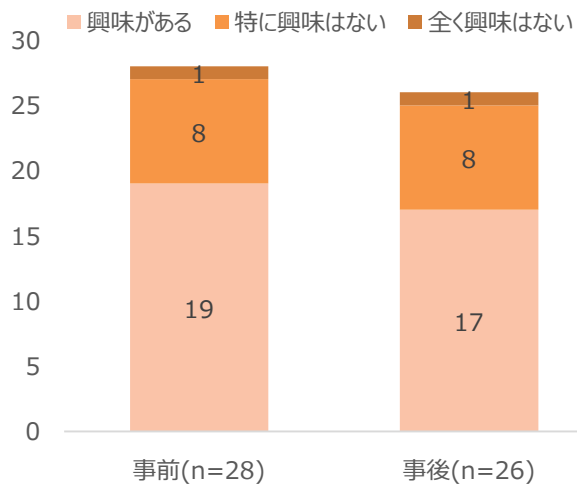


# アンケート

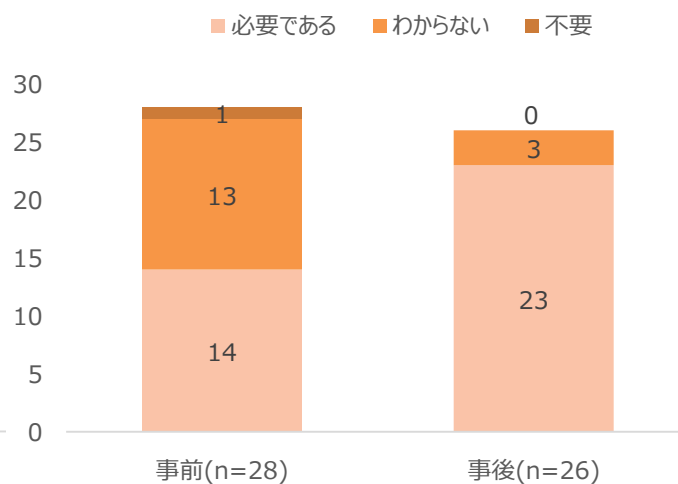


## 5. 国際関係について

海外留学に



1F廃炉はじめ福島復興に海外の知見が



海外で働く事に

